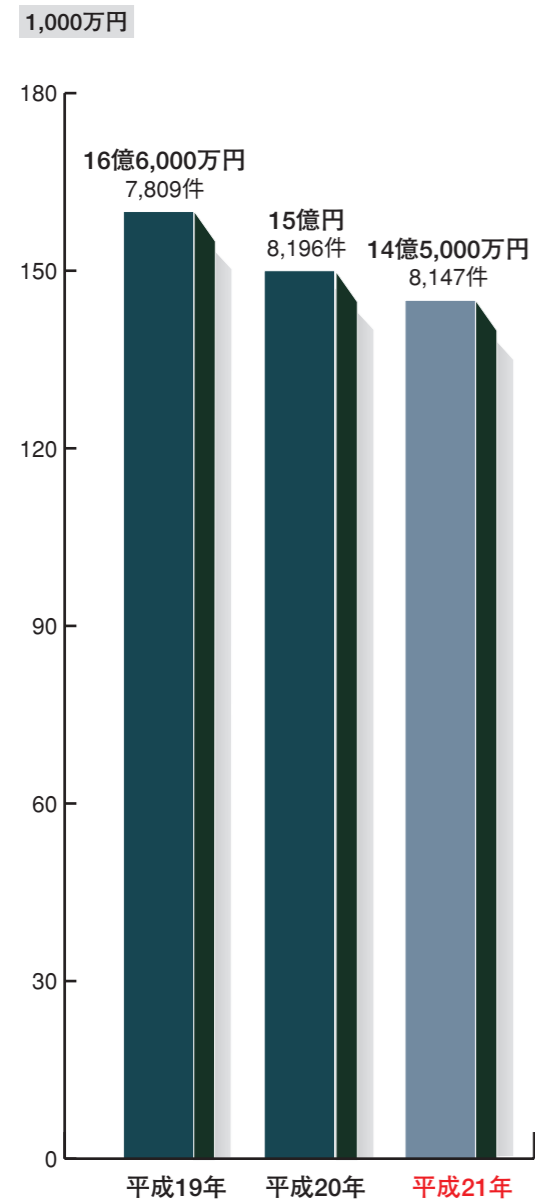
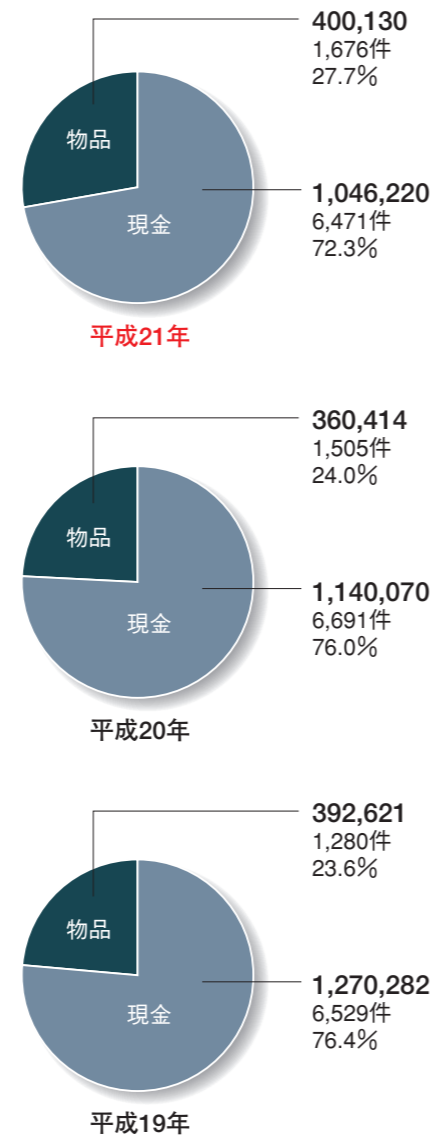


■年別 拠出額と拠出件数

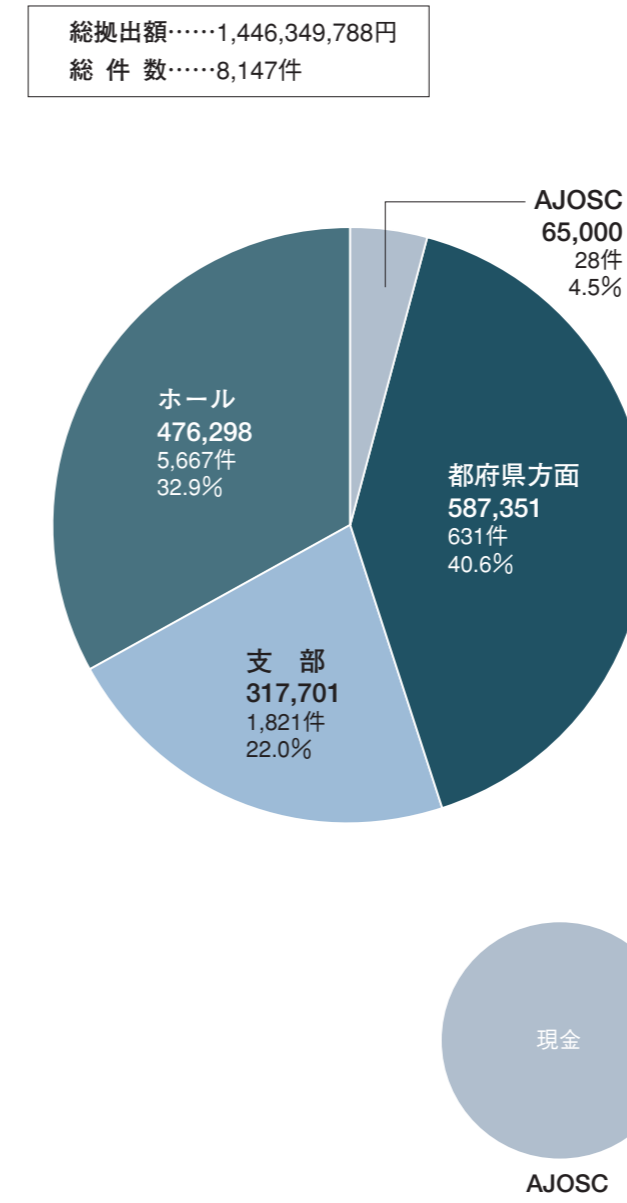


■年別 現金・物品の割合

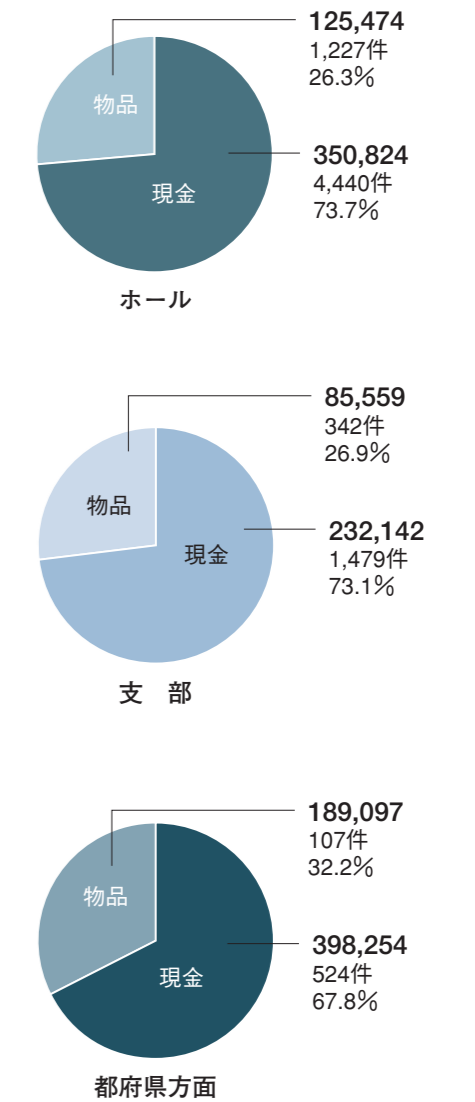


(単位：千円)

■平成21年拠出元別 拠出額と割合



■平成21年拠出元別 現金・物品の割合



(単位：千円)

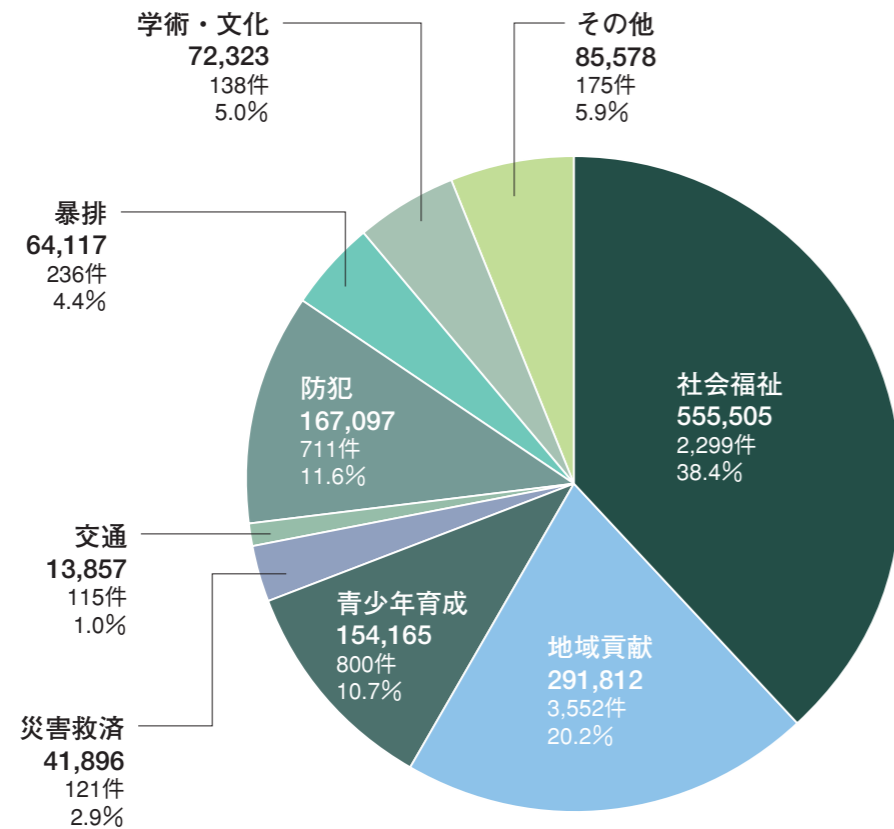
対象期間	平成19年	平成20年	平成21年
拠出総額(件数)	1,662,902,764円(7,809件)	1,500,484,188円(8,196件)	1,446,349,788円(8,147件)
内 現金拠出額(件数)	1,270,281,848円(6,529件)	1,140,069,928円(6,691件)	1,046,220,093円(6,471件)
内 物品拠出額(件数)	392,620,916円(1,280件)	360,414,260円(1,505件)	400,129,695円(1,676件)

拠出元	都府県方面	支部	ホール	AJOSC
拠出総額(件数)	587,350,699円(631件)	317,701,260円(1,821件)	476,297,829円(5,667件)	65,000,000円(28件)
内 現金拠出額(件数)	398,254,135円(524件)	232,141,935円(1,479件)	350,824,023円(4,440件)	65,000,000円(28件)
内 物品拠出額(件数)	189,096,564円(107件)	85,559,325円(342件)	125,473,806円(1,227件)	0

※物品は現金換算した金額です。
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。
したがって合計が合わない場合があります。

■平成21年分野別 拠出額と割合

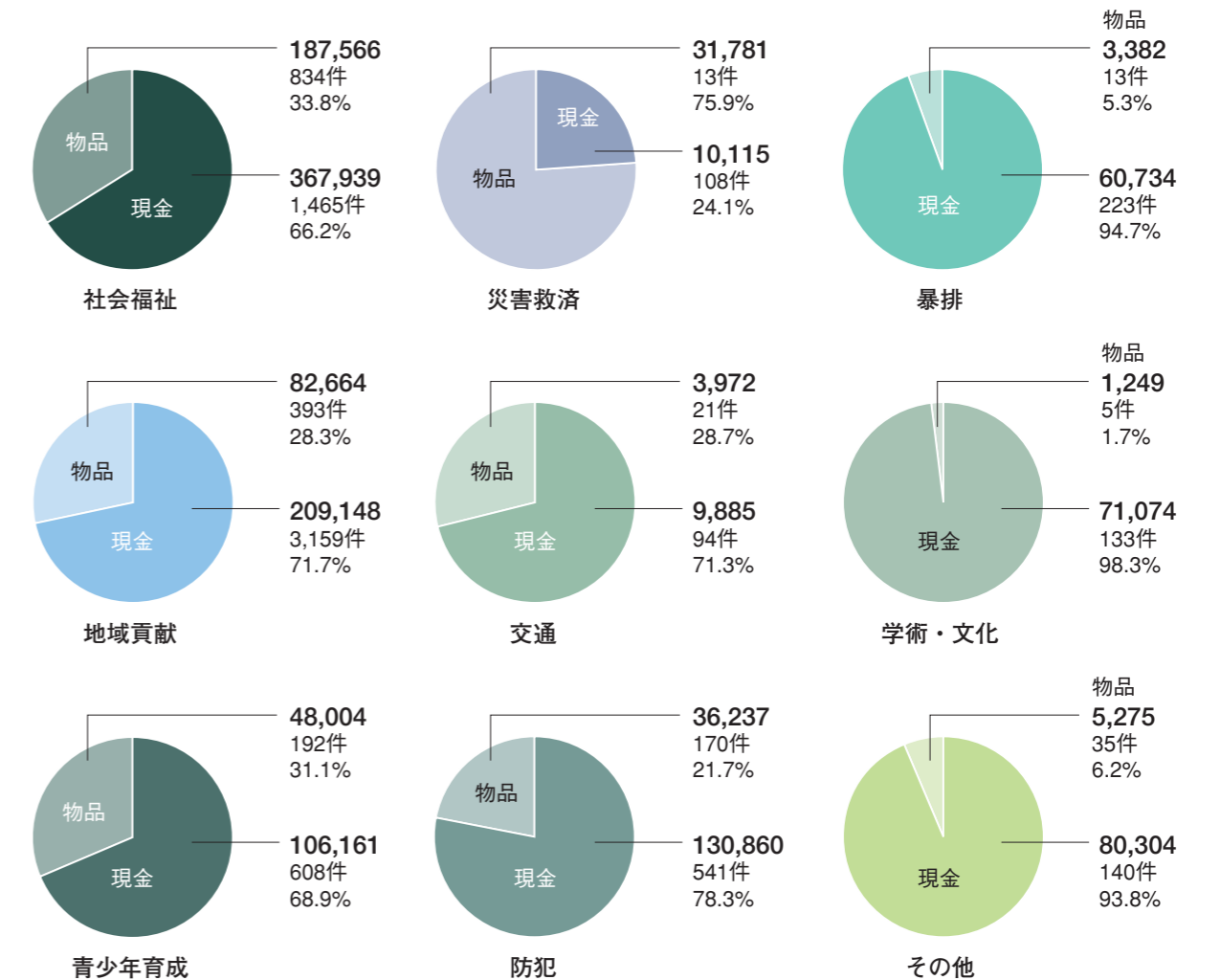
総拠出額……1,446,349,788円
総件数……8,147件



(単位：千円)

■平成21年分野別 現金・物品の割合

現金総額……1,046,220,093円
件数……6,471件
物品総額……400,129,695円
件数……1,676件



(単位：千円)

拠出内容	社会福祉	地域貢献	青少年育成	災害救済	交通	防犯	暴排	学術・文化	その他
拠出総額 (件数)	555,505,039円 (2,299件)	291,811,906円 (3,552件)	154,164,981円 (800件)	41,895,797円 (121件)	13,857,047円 (115件)	167,097,056円 (711件)	64,116,764円 (236件)	72,322,764円 (138件)	85,578,434円 (175件)
内 現金拠出額 (件数)	367,939,100円 (1,465件)	209,148,374円 (3,159件)	106,160,891円 (608件)	10,115,282円 (108件)	9,885,285円 (94件)	130,859,753円 (541件)	60,734,285円 (223件)	71,073,500円 (133件)	80,303,623円 (140件)
内 物品拠出額 (件数)	187,565,939円 (834件)	82,663,532円 (393件)	48,004,090円 (192件)	31,780,515円 (13件)	3,971,762円 (21件)	36,237,303円 (170件)	3,382,479円 (13件)	1,249,264円 (5件)	5,274,811円 (35件)

平成21年 社会貢献・社会還元の実施状況調査結果総評

平成21年(平成21年1月～12月)

平成21年総額14億4,635万円余の拠出

**拠出額は若干減少したが厳しい経済状況の中、減少幅は小幅に留まる
都府県方面遊協は件数・拠出額とも前年を上回る社会還元活動**

調査は、これまでと同様平成21年1月から12月までの1年間の活動を対象として行われ、都府県方面遊協が各支部組合及び各組合員ホールからの報告をもとにとりまとめた。今回も51の全組合から報告があった。

拠出金総額は約14億4,635万円で、拠出金の内訳は、現金10億4,622万円、物品(現金換算)約4億13万円であった。拠出総額では昨年より約5,413万円少なくなっている。しかし、前年の減少額約1億6,241万円に比べると減少額はかなり少なく、厳しい経済状況の中でも、しっかりと社会貢献活動を行った結果といえる。

拠出金の内訳をみると、都府県方面が約4,319万円増、支部組合が約7,512万円減、組合員ホールが約2,320万円減となっており、都府県方面が全体の40.7% (昨年は36.3%)と拠出割合が増加している。

社会貢献・社会還元事業の拠出先別金額は、①社会福祉関係5億5,551万円(38.4%)、②地域貢献関係2億9,181万円(20.2%)、③青少年育成関係1億5,416万円(10.7%)、④災害救済関係4,190万円(2.9%)、⑤交通安全関係1,386万円(1.0%)、⑥防犯関係1億6,710万円(11.6%)、⑦暴排関係6,412万円(4.4%)、⑧学術・文化関係が7,232万円(5.0%)⑨その他8,558万円(5.9%)となっている。項目別の金額を前年比でみると、「地域貢献」と「暴排」が金額・件数とも増えたが、中でも「地域貢献」は3年連続で金額・件数とも増え、地域に密着した活動を積極的に展開している事が窺える。「学術・文化」は、件数こそ減ったが金額は大幅な増となった。これは奈良県遊協の「平城遷都1300年記念事業への支援」や兵庫県や愛知県の大口金額の活動があったためである。

「社会福祉」は金額が若干の減少となったが件数は増えており、きめ細かな貢献事業が積極的に展開された現れと思う。「青少年育成」「災害救済」「交通」「防犯」「その他」は金額・件数とも減少となった。「災害救済」は今年も幸いなことに大きな災害が無かったため、むしろ喜ばしい結果といえる。

きめ細かな社会貢献活動を多彩に積極展開

例年通りの地域密着型の施策に加え、エコロジー関連の新しい事業も

社会貢献活動の具体的な事例については、都府県方面遊協から今回も1,365件の報告が寄せられた。これは過去最高の数字となった昨年の1,309件を更に上回る結果で、各地できめ細かな貢献活動を更に積極的に実施していることを示している。

各地で展開された社会貢献活動の内容を細かく見ると、今年も「施設にクリスマスプレゼント」や「老人ホーム等でパチンコ大会」など、子どもやお年寄りを大切にする事業は半数以上の都道府県で実施されている。また「献血キャンペーンに参加」や「清掃・ごみの収集ボランティア」「防犯・安全パトロール」「ひたくり防止ネット配布」「自転車盗難防止の呼びかけ、ワイヤーロックの配布」「防犯、交通安全、暴排パレード等の大会への参加」など地域密着型のものが例年通り多く展開されている。更に「チャリティゴルフ大会」「地元スポーツ活動への支援」「野球教室やサッカー指導」など、スポーツ関係事業への協力や参加もますます多くなっている。また「プルタブ回収ボックス設置」「募金(玉)箱の設置」などによって、車椅子や青色回転灯、AED(自動体外式除細動器)などの寄贈も引き続き実施されているが、今回は「訓練用ダミー人形の寄贈」とか「AEDを使った救命訓練の実施」など、単に機器を設置するだけでなく、それらを効果的に活用するためのノウハウを身につける、これまでの事業に関連する二次的な事業の実施も報告されている。更に「セルフ商品の購入」「各種授産施設等への仕事の依頼」「地域の祭りやイベントへの協賛」「電光掲示板による告知・啓発活動」なども、例年通り多彩に継続的に行われている。

また、新型インフルエンザ関連でマスクの無料配布や消毒液の設置、ワクチンの寄付といったタイムリーな施策やクールビズや消費電力削減、CO2削減、廃油を回収しバイオ燃料精製といったエコロジー関連施策の実施も報告されている。

今後の課題と展望

平成21年の社会貢献・社会還元活動は引き続き経済環境悪化の中でも、実施件数はほぼ横ばいで、知恵を絞った新たな取り組みも含め積極的に展開されており、業界全体として意欲的に社会貢献活動に取り組む姿勢は、組織全体に或いは地域の人々の間に着実に浸透している。

今後は、更に一層横の連絡を密にして、時には業界全体の年間テーマを設定するなどして、全国一斉に社会貢献事業を展開するとか、ある時期に絞って共通テーマを一斉に実施するなど、業界の存在と、その貢献事業の実態を積極的に周知し、理解を得るなどの新しい取り組みもあって良いのではないかと考える。

また昨年も書いたが、各組合、支部・ホールのみなさんが「社会貢献活動年間報告書」に掲載されている、他の地域の貢献活動を参考にするなどして、一層の多種多様な活動を展開されることを期待したい。